

5月21日(水) 1933年

今日の日... 労働者の生活... 労働者の苦闘... 労働者の希望...



労働者の生活... 労働者の苦闘... 労働者の希望...

焼打すべし」の謠言

八幡製鐵所騒擾

小康状態なるも 蜚語の爲め人心恟々然たり
八幡製鐵所内各所に小騒擾を激し、大日の夜を過ぎたる八幡製鐵所の職工等は皆局の騒擾なる態度を要するの嚴重なりし爲め七日の朝に至つては夜業を働かざる者ありし。

小康状態

を呈し居り在京日長官より七日朝中川次長長官の訓諭あり政府の態度を察し来り日長官長官の名を以て職工等と對し午後職工を解雇することになり目下印刷中なれば職工等その内容の如何によりては形勢如何に變化するかも知れず不確定な状態に依然として

同志糾合

七日夜を期して製鐵所を焼打すべしなどの流言を散らされるより製鐵所内は勿論八幡市中は人心恟々たる有様なり而して製鐵所職工より成る七千名の同志會は七日午後一時より八幡市衛生局に於て開會式を挙げて同志會員は製鐵所を自せらるる、職工等して今日の職工で加減せざるべく同志會を率ひ居る。

労友會側

を認め居り(八幡來電)

の職工多數は同志會に押寄せ居る

今日の話題

熔鑪の火が消いたら... 何故? 大阪高工探鑛冶金科後藤博士は一冊鐵爐は高さ八十尺から百五十尺もある煉瓦で造られたもので、中へ石、コークス、石灰を入れ、上部から風を送つてコークスを燃焼せしむ。石は其高熱の爲に還元してドロドロの鉄となつて下底に溜るのであるが若し此羽口を閉鎖して風を送らなければコークスは燃焼せず従つて熱は高まらずドロドロの鉄は冷却の爲に固く凝結して最早使用に堪へず、斯うなれば再び熔鑪を作り直しなければならぬ。八幡製鐵所の熔鑪は一二三百萬圓、一日一爐の生産が二百噸から二百五十噸、現在六本あり一本を準備として五本だけ活動して居るから火が消れて凝結すれば熔鑪だけで千五百萬圓の損害である。労働者も要求は要求としても斯うした國家の機構は保護して欲しい。

労友會副會長捕はる

大阪方面の助力を求むべく

労友會幹部悉皆拘束

今日同僚の中心人物と目せられ、今同僚の中心人物と目せられ、件突發以來拘束すべく其筋に於て八方苦心となりし労友會副會長西田大郎(三)は爾來巧に變装して工部外に於て活動しつゝありしが六日午後十時まで同志を糾合指揮に努め居りし労友會幹部が殆ど全部拘束せられたるより自分は大阪方面の同志の援助を受くべく同夜製鐵所の高峯を乗り越えて脱走する。警察隊を突撃し九軌電車にて門司に向ふ途中十二時頃電車内に於て八幡製鐵所より追跡せる永松部長に逮捕せられたりこれにて労友會幹部二十五名は全部拘束せられたる。因に西田は職立工業學校の出身にて製鐵所の職員あり、友會中の計畫者たりき(八幡來電)

同志會の宣言發表

一、吾人は時代の趨勢に鑑み知識の進歩の性の向上、技術の發達を期するにあり
二、吾人は團體の力に依りて生活の安定、待遇の改善を期するにあり
三、吾人は協力一致救済事業の發展を期するにあり